

「毎日食べたい」と思う野菜づくり

川越市の柴田洋佑さん

【埼玉】川越市のしば田んぼファームの柴田洋佑さん(40)は、お客さまが毎日食べたいと思う野菜づくりを目標に、米や麦、枝豆やニンジン、プロッコリー、サトイモなど



を栽培している＝写真。

非農家出身の柴田さんは大学で農業を学び、食に関わる企業に就職。多くの生産者や農作物に触れる中で、自分も作りたいたいという想いを強くした。いるま地域明日の農業担い手塾で2年間研修し、農業委員会から農地や農作業場などのあっせんを受け、6年前に就農した。「農業委員会職員の方も親身になって相談に乗ってくれて、感謝の気持ちで

いっぱいです」と柴田さんは話す。

地元の会合にもできるだけ参加し、積極的に地域の先輩農家とコミュニケーションをとった。地域からの信頼も得て、経営面積は田1畝、畑3畝まで拡大した。現在、市の川越産農産物ブランド化連絡会に所属し、地域で活躍する若手農業者として期待されている。

「今後は川越産農産物のPRに努め、お客さまに選んでもらえる米と野菜づくりを続けていきたい」と、柴田さんは熱い想いを語る。